

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点1	児童重点1	児童重点2	重点2	児童重点3	重点3	児童重点4		
	地域のつながり、地域	子どもたちとの「身近な」関係となる	子育てを支援する	さまざまな課題を抱えるため	課題を抱える親子を、早期に見え、つなぎ、支える	民生委員・児童委員として、いくために	児童委員制度やその活動の理解を促進するため		
小月				○				- 令和6年6月7日 13:00～18:00 13名 - メディック・ファーストエイド認定のインストラクターによる実践講習	【成果】 - 参加者全員高い評価が得られた。 【課題】 - 緊急対応で救急車が到着するまでの間の積極的な行動がとれると思うが、体力的に不安がある。
彦島第2	○							- 令和6年7月9日(火) 回数1回 - 参加者数 56名 - 第1、第2民児協共に、体調不良の方や仕事が休めなかった方もあり、全員68名より少ない人数になったが、楽しく和やかな雰囲気の中で開催できた。	【成果】 - 今まで交流が全然なかった彦島同志の民児協が顔を合わせ、第2の定例会の進行や内容を見て、第1の方がとても良くて真似したいと言ってくださったのが良かった。 【課題】 - これきりの会にせず、年に一度はお互いの会に参加して交流を深め、委員同志の意識を高めて、同じ目的を持つ者同志、見聞を広げられるようにしたい。
豊田	○							- 令和6年7月2日(火) 10:30～11:30 - 豊田民児協24名、大嶺民児協1名、美祢市民児協事務局1名、豊田・美祢社協各2名 - 昨年発生した大雨災害に対して、民生委員の対応を社協との協調についての意見交換を実施。	【成果】 - 民生委員として災害時における行動等について共有することができた。 【課題】 - 災害発生時、情報が早く伝わりにくい。また、活動範囲が広く、全体を把握するのに時間がかかる。
川上						○		- 民生委員・児童委員PRグッズ(抗菌クリアファイル、委員制度パンフレット)は、ひとり暮らし訪問、高齢者訪問に活用。 - 地域行事(お楽しみ昼食会5/26、地区合同研修会7/25、文化祭10/27、夏まつり8/3、敬老会9/14、地区運動会9/29、子育てサークル、図書貸出日)で、民生委員活動の周知や活動への理解を深めるため配布。 - 上記行事の際にネーム入りエプロンを着用して参加。ベストは登下校時の交通立哨や行事等で着用(交通安全週間他)	【成果】 - 民生委員・児童委員活動を周知することで、高齢者の方々だけでなく地域住民の方々の関心や理解が深まったと思う。活動を通じて委員相互の連携を深めることができた。 【課題】 - 上記の成果が民生委員確保につながるかどうか。
上宇部			○					- 上宇部子ども食堂を民生児童委員が中心となり、地域のボランティア団体に協力してもらい行った。月1回(毎月第2金曜)参加者数は32人～57人で推移している。 - 見守り隊が子どもたちを学校から上宇部ふれあいセンターまで連れてくる。宿題、自主勉強、読書などをして、16:30食事、17:00全体遊び、18:00～18:30保護者の迎え。 - 働く保護者が多いため、子どもたちの居場所づくりを目的に「学ぶ・食べる・遊ぶ」をモットーに行っている。	【成果】 - 子ども食堂を利用する人数が増えてきて、現在は断っている状況である(机や椅子が足りない)。保護者から子どもの育て方を相談されることもよくあり、いろいろなボランティア団体が関わることで応援する地域づくりが進んできている感がある。 【課題】 - 子どもたちを受け入れる場所が足りない。小学校の近くで受け入れる場所がほしい。

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点 1	児童 重点 1	児童 重点 2	重点 2	児童 重点 3	重点 3	児童 重点 4		
	地域 の力を 高める ために、 地域	の子ども たちと 「身近な 地域な る」	子育て 地域、 子育て を支援 する	さまざまな 課題を 抱える ため	課題を 抱える 親子を 早期に 支える	民生委員・ 児童委員・ 児童委員 制度を 守り、 発展さ せるた めに	児童 委員 制度 の理 解を 促す ため		
小羽山	○				○			【目的】 ・民生委員・児童委員の資質向上、委員の発展、スキルアップを図る。 ・地域団体との連携強化、地域住民とのコミュニケーションを通じて、つながり強化を図る。 ・子育て相談支援の推進、充実に努める。 【事業内容】 ・地区社協と連携して、意識の高揚の学習会を行う。 ・民児協の研修会、専門講師を招集し、スキルアップ研修を行う。 ・地域の高齢者が安心安全に暮らせる相談支援と子どもたちの豊かな心で育む活動。	【成果】 ・民生委員・児童委員の資質向上、委員の発展、スキルアップを図る。 ・地区社協と連携して、意識の高揚の学習会ができた。 【課題】 ・地域団体との連携強化、地域住民とのコミュニケーションを通じて、つながり強化を図る ・子育て相談支援の推進、充実に努める。
大殿	○	○	○		○		○	大殿サロンの実施 ・子どもの居場所づくり…大殿地域と子どもをつなぐ事業 ・地域食堂(大殿キッチン) ・大人の居場所づくり ・お手伝いマスター教室 ・お弁当クラブ ・つどいの広場(つながるサロン)…大殿地区社協との共催事業 ・遊びの広場(子ども夏祭り) ・カレークラブ	【成果】 ・大殿キッチン、わくわく広場、お手伝いマスター教室等を通して、自分のことは自らできるように自発的な資質を身につける講座を開催し、一定の成果があった。 【課題】 ・以前は夏休み期間等を中心にした事業であったが、今年からは年間を通じた事業となった。主任児童委員を中心に、地域のボランティアのみさんの支援により運営し、過度な負担とならないように心配している。
湯田	○			○		○		・町内会、自治会と協働し、湯田小新入学児童との対面式(4/16)、下校時の見守り活動(4/10～15、延べ参加者77人)を実施。 ※6月を挨拶運動強化月間とする。 ・毎月実施(原則第1月曜日)の湯田小中学校の挨拶運動へ参加、各委員地先で登校時立哨(延べ参加者35人)を実施。 ・湯田地区社協主催の「よろず相談室」へ参画し、地域の声を専門機関につなぐ役を果たす。中央地域包括支援センター「ふくまる相談室」と連携した活動を行う。 ※よろず相談室、毎月第2水曜日に実施。相談件数8(内訳:高齢者福祉関係3、地域福祉関係5)。令和7年1月から、毎月第2水曜日「移動ふくまる相談室」開設。相談件数4件。いずれも専門機関へつなぐ。 ・次回改選に向けて、民生委員・児童委員の地域における活動の現状と役割の重要性を理解していただくため、自治会月例会等での理解活動を進める。 ※湯田地区町内会連合会月例会(4月、9月、3月)でパンフレットを配布し理解活動を進めた。	【成果】 ・実施した活動自体、概ね評価できる。 【課題】 ・民生委員・児童委員に限らず地域を巻き込んだ活動とすれば、民生委員・児童委員活動そのものが地域に理解される。このことが反省事項でもある。

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点1	児童重点1	児童重点2	重点2	児童重点3	重点3	児童重点4		
	地域のつながり、地域	子どもたちの「身近なおとな」となる支援となる	子育て、子育てを進める	さまざまな課題を抱えるために	課題を抱える親子を早期に見え、つなぎ、支える	民生委員・児童委員制度を守り、発展させるために	児童委員制度やその活動の理解を促進するために		
小郡		○					○	地域とのつながり ・毎月各小学校に出向き、出身中学生と共に、校門前で挨拶運動を実施し、小中一貫教育に向けての指導協力を実施した。 ・小学校3校とも、夏休み前に「学友区児童会」に担当地区民生委員・児童委員が参加して、夏休み中の地域の危険箇所やゲームセンターなどの遊技場への入場等について児童と話し合った。 ・小郡地区社協の3大祭りの「福祉まつり」において、民児協の活動状況、簡易な相談及びイベントとして、たこ焼きならぬ「みんきょうやき」を、地域住民に振る舞い、好評を得た。	【成果】 ・各学校の先生方とふれあいもでき、児童とのつながりもでき、顔の見える関係になったと思う。 ・イベント会場において、地域住民の方とのふれあい、交流ができ、民生委員活動への理解、協力も得られたと思う。 【課題】 ・時間の制約もあり、事故想定も活動範囲に考えなくてはならないが、イベントについては安全最優先で、社会経験の一環として児童生徒の参加も促したい。
川上				○				日時：令和6年12月11日（水） 視察先：周南マリコム株式会社（令和7年度からの緊急通報事務等の委託先）、自動運転EVバス 参加者：11名 内容：緊急通報の仕組みや、従来の緊急通報装置との違い、会社の取組などについて説明を受け、コールセンターで実際に対応されている様子を見学した。周南市で実証運行していた自動運転EVバスの説明を受け、市場体験をした。	【成果】 ・利用者の情報を細かく収集管理し、複数人に対応するなど、どのようなことでもすぐに対応できる体制がとられていることを知った。また、緊急通報対応以外にも、些細なことでも相談を受ける、センター側からも毎月1回は声かけを行うなど、安心安全な生活のための取組について学んだ。親しみがあがり、優しく丁寧な対応に感銘した。実際に自動運転EVバスに乗り、安心な乗り物であることを実感した。日常的な乗り物になるには、制度等課題が多く、まだ先のことだが、高齢者等にとって便利な交通手段になると思った。 【課題】 ・利用者等に従来の緊急通報装置と違って、気軽に相談してもいいなど、安心な生活のために活用できることを周知していく必要があると思われる。自動運転EV車等に試乗できる機会を増やし、より多くの方に安心な乗り物であることを知ってもらう必要があると思う。
大島		○	○					・街頭交通安全指導 ・青少年健全育成についての研修 ・クリーン作戦 ・子どもの遊び場点検、清掃等 ・保健師による健康についての勉強会 ・子育てサロン開催 ・小学生のクリスマス会及び夏休みお楽しみ会 ・高齢者（1人暮らしと2人暮らし）の見守り、声かけ ・おたすけ隊への参加協力 ・サロンかもめへの参加協力 ・ゆうあいカフェへの参加協力	【成果】 ・子どもたちが進んで挨拶をしてくれるようになりました。 【課題】 ・少子化で、子どもの人数の激減

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点1	児童重点1	児童重点2	重点2	児童重点3	重点3	児童重点4		
	地域のつながり、地域力を高めるために、地域	子どもたちの「身近なおとな」となる支援となる	子育て、子育てを支援する	さまざまな課題を抱えるために	課題を抱える親子を早期に見え、つなぎ、支える	民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくために	児童委員制度やその活動の理解を促進するために		
富海	○	○				○		【重点1】 ・この度、富海地域諸団体が所属の「活性化協議会」において立ち上げた「17歳プロジェクト」(地元小中、市内高校生、県内大学生の若い世代の勇気と、知恵を拝借し、地域活性化について検討、実行)に参画し、今年度の11月開催(仮称・富海光フェスタ)を2年越しに計画してまいりました。昨年の12月には、プレ・フェスを実施し、確かな感触を得ました。活動強化年度は、過ぎましたが、継続し、ようやく本番開催までにこぎつけました。この準備活動のおかげで、民児協活動強化方策推進事業テーマである「地域のつながり、地域力を高めるために」については、確かな手ごたえを感じています。11月のフェスタが、地区活性化の原動力になることを念じています。 「4/13、6/15、8/26、10/19、11/30、12/12、2/15,3/29」開始(9:30～、13:30～、17:30～)各2時間以内、出席(各回9名～12名) 【児童重点1】 ・見守り活動(登校時、交通立哨他) ・小学校指導による「9×9道場」開始、この事業の指導員(民生児童委員9名)依頼あり。10/4,11/15,12/13,1/24,2/28 ・学校・地域交流モルック競技参加 2/25 *今後定期化の予定。 ・地区文化祭(・中学校生徒と民児協交流、福祉バザー販売活動)11/3 ・富海民生委員ロゴ(補助金・新調ベスト)地区文化祭にて着用披露) ・学校訪問(富海小中学校運営協議会出席)中学生リードでの「熟議」他授業参観(学期ごと)学校と地域の輪づくりに。	【成果】 ・地域活性化事業に参加し、皆が、一つの目標に向かって協働することにより「地域のつながり、地域力を高めるために」との第一目標はイベント途中でありますが、手応えを感じました。 ・学校諸行事参加で、対話の機会が増えただけでなく、一対一のやり取りや、同グループとしての仲間意識等、距離が一段と近づいて来たように思います。 ・地域の協力を得ながら、民生委員同士「誰一人、孤立者を見逃さない」の合言葉で、日々の声掛けや、心配ごと相談等、地味な活動効果が出ているように思います。誰にも話せない、共通の悩み事も、すんなり解決、意気投合の場面を見るにつけ大切な会に育っています。 【課題】 ・「人口減(少子高齢化)」:小中学校については、早くから「小規模特認校」として指定を受け、校区外からの登校が可能になり、新しい風が吹き、特に英語教育に関しては、良い評価を得ています。 ・地域全体で考えたとき 2011年3月末富海人口2,266人、2025年3月末1,716人※14年間で550人減 ※対応に苦慮しています。

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点 1	児童 重点 1	児童 重点 2	重点 2	児童 重点 3	重点 3	児童 重点 4		
	地域 のつ なが り、 地 域	の お 子 と ど も の た ち の 「 身 近 な 地 域 な る 」 と な る	子 育 ち 、 子 育 て を 進 め る	た ま び と を 支 え る た め に	課 題 を 抱 え る 親 子 を 早 く 支 え る	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員 制 度 を 守 り 、 発 展 さ せ て い く た め に	児 童 委 員 制 度 や そ の 活 動 の 理 解 を 促 進 す る た め に		
								【重点3】 ・たちばな会(65歳以上のお一人暮らしの会)開催10/25 ・高齢者(70歳以上)の方々への見守りについて(年間通し) ・「PR活動」として、年度初めには必ず、「公民館だより」に「民生委員児童委員の存在の意義と役割」について、委員全員の氏名、連絡先とともに掲載して頂いています。参考(4月号) ・高齢者健康福祉調査について(4/1～6/20)・手持ちの控えには、都度発生した時点でより詳しい情報を更新していく(年間通して)調査後の見守りこそ大切。	
小野	○	○						・小野小学校、小野中学校 学校運営協議会と共催で、「挨拶運動標語募集コンクール」事業を実施した。 ・小野小学校、小野中学校、同PTA、地域一般住民を対象にして、広く地域内でお互い今以上に挨拶を意識し、それを交わす機会を増加させることをめざして、標語作品を募集した。 ・その結果、全74作品が集まり、学校運営協議会委員が中心となって審査を行い、事業主旨に沿った優秀な作品20点を選出した。これらを幟旗に仕上げ、地域内要所に設置し、これを毎朝、毎夕目にすることにより、挨拶を意識した地域内相互の連帯意識や、子どもと大人が見知り言葉を交わす機会増加の一助とした。 募集期間: 令和7年1月11日から2月7日 募集対象者: 小野小児童75名、小野中学生55名、地域住民世帯数1482世帯 優秀作品表彰: 令和7年3月30日 於 小野公民館	【成果】 ・小中学生同士、または小中学生と地域住民との挨拶の機会が増加した。小中学生がいる家庭で、子どもや保護者の考える挨拶標語作品をめぐり、家庭内で話題となり、家庭内における挨拶意識も向上した。 【課題】 ・独居高齢者の方々は、体調面を含め、様々な理由により戸外に出る機会が減少してきており、本事業への参加者も少なく、ソーシャルフレイルなどに陥ることが懸念される。 ・今後の開催においては、PTA、一般の部応募部門の中に「シニア限定応募部門」を設けたい。小野中学校生徒が、小学生のメッセージカードを持って訪問活動などを行う際に、本応募コンクールの紹介などを行うことにより、シニア世代の社会的参加を促し、民生児童委員協議会、学校運営協議会とおしなながら、このような方々と、地域の子どもたち、他の住民との交流を増やしていける事業を推進していく必要がある。
江の浦	○			○				・高齢者実態調査の結果をもとに、70歳以上一人暮らし、75歳以上二人暮らし、認知症、在宅寝たきり、そして児童委員さんが作成してくれた18歳以下の子ども世帯をゼンリンの地図に印し、民生委員5名、児童委員1名の委員相互の共有を図った。 ・笠戸島は広く、家もあちこちに点在している地域もあるため、CDから地図を起こしてもらった作業が大変で、一人が3～5枚のA4の地図に印すという個人作業となった。	【成果】 ・色別にしたことで、地図を見れば一目で分かり、番号と名簿を照らし合わせれば、誰がどこに住んでいるかを判別することができる。 【課題】 ・笠戸島は少子高齢化そのものの地域。年々、亡くなられる方や70才以上になる方も多く、一年ごとの変化を地図に記入していければと思う。
御庄				○				・山口県消費生活センター研修 日時: 令和6年7月29日(月)10:00～12:00 参加者: 民生委員6人 実施内容: 消費生活トラブルの学習と見学(うそ電話詐欺等)	【成果】 ・うそ電話詐欺の概要を学習し、理解できた。 【課題】 ・うそ電話詐欺もいろんな手口があるので、引っかかりたくない。

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点1	児童重点1	児童重点2	重点2	児童重点3	重点3	児童重点4		
	地域のつながり、地域	子どもたちの「身近なおとな」となる	子育て、子育てを進める	さまざまな課題を抱えるために	課題を抱える親子を早期に見え、つなぎ、支える	民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくために	児童委員制度やその活動の理解を促進するために		
藤河		○				○		・小学校運営委員会出席、家庭科授業応援(ミシン操作、岩国寿司作り) ・視察研修授業(12月3日) - 場所:広島県広島市豪雨災害伝承館 - 目的:福祉員と合同で防災減災のための学習講座を受ける - 内容:被災民生委員の講義を受け、自地区の洪水災害を思い出し、民生委員としての活動のあり方について再確認した。	【成果】 ・災害に備える民生委員児童委員活動10か条等、各委員の資質向上となった。 【課題】 ・地域自治会、防災会との連携の充実を図るようにする。
北河内	○	○						・自治会連合会及び地区社協の会議において、地域住民に頼りになる活動を展開すべく民児協の具体的な取組を紹介し、広く再認識してもらうことに努めた - 自治会連合会会議出席3回 出席者延べ48人 - 地区社協会議出席5回 出席者延べ78人 - 社協主催行事出席3回 出席者延べ210人 ・地区福祉員連絡協議会との交流を促進し、情報を共有することで支え合える地域づくりに努めた。 - 合同会議4回開催 高齢者実態調査、地区敬老会開催、くらしの便利表作成配布、合同研修等 ・地元小学校に地域住民が立ち寄り交流できる橋渡しに努めた。 - 朝の学習支援:民生委員が中心に、地域住民が毎週月曜日の朝学習の時間に1・2年生の教室に入り、児童がドリル自習に取り組む傍でアドバイスや採点等の支援を行った。36回 延べ124人 - 児童、保護者、教職員及び地域住民が一丸となって郷土料理、さつま芋栽培、焼き芋大会を実施し交流を図った。郷土料理(岩国寿司、大平)11/16 参加者80人	【成果】 ・各委員が連携を深め、地域とのつながりに向けて主体的に取り組んだことで、自己の活動に自信を持つなど、意識の高揚を図ることができた。 - また、小学校の児童、教職員との交流を密にしたことで、子どもたちの「身近なおとな」として認識を新たにすることができた。 【課題】 ・今回取り組んできた活動をさらに発展させるためより多くの地域住民を巻き込んで継続していくための方策を検討していきたい。
第三						○		・刻々と変化する地域住民のニーズへの確に対応できるよう、各委員の資質向上を図ることを目的とする。 ・地域コミュニティ協議会や地域内各福祉団体との協働による各種会議、研修や訓練の実施(人権推進大会、青少年健全育成推進大会出席) ・介護教室、認知症教育、防災訓練の実施	【成果】 ・各種行事に参加することにより、今まで気が付かない色々なことが少し分かってきたように感じる。日頃、つきあいのない方との交流が図られたことは良かったと思う。 【課題】 ・まだまだ我々の思いつかないことが起こってくるのではないかと感じる。一人一人が自分のことは自分で守るという決意が必要ではないかと考える。

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点 1	児童 重点 1	児童 重点 2	重点 2	児童 重点 3	重点 3	児童 重点 4		
	地域 のつ なが りな るた めに 地域	のこ 子ど 育ち とま たの ちの 「身 近な 支援 団体 とな る地 域な る」	する 子育 地ち 域ち づく り育 をて 進め 援	たさ まび ざま なな に課 をを 支え る抱 ええ る抱 ええ る抱 ええ	期に 課を 抱え る抱 ええ る抱 ええ る抱 ええ	度民 を生 守委 り員 ・ 発 展展 させ て制	動児 経委 の理 解員 制を 度や その 活		
仙崎	○			○		○		地域の見守り活動、住民との連携強化の一環として、異常気象が続く昨今における当 仙崎地区の気象状況、災害リスク等について、地区民を対象とした講演会を開催した。(仙崎公民館 R7.2.3にリニューアルオープン記念事業として、同地区社会福祉協議会共催とした) 1 記念講演会 2 とき 令和7年3月17日(月)10:00～12:00 3 場所 新・仙崎公民館2階 4 講師・演題 下関地方気象台 堤 雅也 氏 「仙崎地区住民向け 気象アラカルト」	【成果】 ・地区住民の参加を得て、防災意識の向上や地域の連帯の重要性を醸成できた。 【課題】 ・今後も引き続き、地域住民、とりわけ福祉員、自治会長会や婦人会等関係諸団体との連携強化が望まれる。
大島	○		○					・「みんなであいさつ」をキャッチフレーズとした「のぼり旗」を6本作製し、地域内6か所に掲揚した。 ・民生委員・児童委員が、見守り活動時や地域の集会(小中学校の学校運営委員会、地区社協の集会、地域サロン等)で「あいさつ運動」の主旨を説明し、協力を依頼した。 ・民生委員・児童委員が、日常、すすんであいさつを実行した。 ・大島中学校生徒会とタイアップして、12月11日と2月14日に大島駅前で「あいさつ運動」を実施した。(参加者 生徒7名、教員3名、地域の方2名、教育委員会2名、民生委員・児童委員2名) ・民生委員・児童委員が朝の登校指導や引率時に、児童と一緒に歩きながら、あいさつを励行した。	【成果】 ・地域住民のあいさつに対する関心も高まり、地域内にあいさつの声が多く聞こえるようになった。 ・小中学生の元気なあいさつが、地域内の高齢者に若返る気がすると喜ばれた。 ・あいさつが地域のつながりをつくるという意識が、少しずつではあるが高まってきた。 【課題】 ・「あいさつ運動」の趣旨を理解してもらい、さらに意識を高め、実践への継続化をいかにするか。
美東		○	○					・令和6年9月25日、美祢市美東センターにおいて講師を含めて21名で事業を実施した。美東町の概要や美東町における民生委員・児童委員の活動内容等を紹介した。また、不登校の小中学生のことを踏まえ、市外の活動推進委員を招き、話を聴き、対応を考え直す契機にした。それらのことを基に民生委員、主任児童委員の質の向上に努めた。	【成果】 ・小中学生の不登校について、美東地区民生委員・児童委員の間で理解が深まった。また、声かけ等の大切さを再認識できた。 【課題】 ・学びの多い事業であったが、多忙な美東地区民生委員・児童委員にとって学びを実践することは、なかなか難しいように感じた。
周陽	○			○		○		1 ひとり暮らし高齢者(70歳以上)へ急病、事故、災害に備えた「救急医療情報」「緊急カード」を配布した。 2 令和6年10月6日(日)の「周陽秋まつり」に「民児協ブース」を出店 ・民児協の活動をパネル展示 ・相談コーナーを設置 ・「救急医療情報」と「緊急カード」を無料配布 3 年賀状 地域内の70歳以上のひとり暮らし高齢者477名へ担当民生委員から年賀状を出す。	【成果】 ・「救急医療情報」「緊急カード」の配布で、生活面での安全性が向上した。 ・地域の人に民生委員活動をPRし、多くの方に理解してもらうことができた。 ・年賀状で、ひとり暮らし高齢者と民生委員の絆を強めた。 【課題】 ・周陽市民センターが令和6年10月から令和7年2月まで改修工事使えなかったため、当初予定していた「親子うどん作り大会」ができなかった。

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点1	児童重点1	児童重点2	重点2	児童重点3	重点3	児童重点4		
	地域の力を高めるために、地域	子どもたちの「身近な」となる	子育てを支援する	さまざまな課題を抱えるために	課題を抱える親子を早期に見え、つなぎ、支える	民生委員・児童委員として、いくために	児童委員制度やその活動の理解を促進するために		
久米		○				○		・地区社会福祉協議会と協働して子どもの居場所づくりを実施し、小中学生を対象とした学習支援や体験、高齢者も交えて昼食の提供を行った。 令和6年6月22日…民生委員・児童委員、主任児童委員5人、福祉員2人、児童32人、高齢者6人、学生ボランティア8人、一般ボランティア16人 令和6年7月13日…民生委員・児童委員、主任児童委員5人、福祉員2人、児童28人、高齢者9人、学生ボランティア22人、一般ボランティア4人 令和6年8月24日…民生委員・児童委員、主任児童委員6人、福祉員2人、児童20人、中学生ボランティア3人、学生ボランティア9人、地域自主防災8人、一般ボランティア6人 ・通学時のながら見守りチラシを製作し配布した。地域活動時に使用する名刺を製作した。	【成果】 ・小学生、中学生、高校生、大学生ボランティアと交流ができ、参加者にも楽しんでもらえた。普段接することの少ない参加者たちに民生委員について知ってもらう機会にもなった。 ・通学時のながら見守りチラシを製作し地域住民に配布することで、安心安全な通学への協力を得ることができた。 ・地域活動時に名刺を携行することにより、信頼性が高まり、「民生委員・児童委員」であるということを理解してもらえた。困ったことや心配事があった時にすぐに相談しやすくなった。 【課題】 ・続けていくことでより一層の成果が得られるので、今後も継続して行う必要があると感じた。
富田	○	○						【事業計画1】 目的：富田中学校が地区内三校連携での「モルック大会」を計画されており、各校担当の主任児童委員を中心に連携協議したのち、大会開催に必要な備品の調達支援ならびに大会への委員参加を行って交流を行う。 モルック本体(協会認定品)：合計4(富田東小学校4、富田西小学校0、富田中学校0) スコアボード：合計23(富田東小学校6、富田西小学校10、富田中学校7) UNOカード：合計21(富田東小学校0、富田西小学校0、富田中学校21) 地域参加実績：3月19日に小中交流事業(富田3校+和田小)に地域として参加。学校だよりに掲載有。 【事業計画2】 目的：市民児協依頼の「高齢者実態調査」を行う際に、「詐欺防止」と「高齢者熱中症対策」のリーフレットを配布して啓発する。また、同時に地区担当民生委員の氏名と連絡先を記入した「民生委員PRカード」を対象者全員に再配布し最新版情報として提供する。 ①詐欺防止啓発リーフ：2000枚(山口県消費者生活センター提供) ②高齢者熱中症対策リーフ：2500枚(印刷業者へ外注手配) ③民生委員PRカード：300枚(市事務局より購入) 上記3点セットを調査対象者、世帯(ひとり1318人、二人世帯534世帯)に対し調査時での手渡しを实践。実績として、ひとり862人、二人世帯403世帯、延べ人数として1666人への啓発ができた。	【事業計画1の成果と課題】 ・学校連携行事への参加は令和7年度も継続し、より連携を深める活動とする。また、1年を通してモルック活動ができるように室内用モルック3セットを追加調達し、委員もメンバーである福祉団体、サロン等に貸出できる体制も構築した。 【事業計画2の成果と課題】 ・啓発活動を実践した委員のアンケート回答にもあるように、3点セットの配布は担当委員の周知にも非常に有効であった。今後の調査時にも啓発リーフレットの配布を行おうと考えている。課題は、啓発テーマがマンネリ化しないように選択すること。また、欠員地区のカバーをどうするか思案中である。

令和6年度 地区民児協活動支援事業

地区	実施した事業							事業内容	事業実施に対する自己評価
	重点 1	児童 重点 1	児童 重点 2	重点 2	児童 重点 3	重点 3	児童 重点 4		
	地域 の 力 を 高 め る た り 、 地 域	の お 子 と も た ち の 「 身 近 な 地 域 な る 」 と な る	子 育 ち 、 子 育 て を 進 め 援 助 す る	た ま び ざ ま な 課 題 を 抱 え る た め に	期 に 発 見 し 、 つ な ぎ 、 早 く 支 援 す る	度 民 生 委 員 ・ 児 童 委 員 協 議 会 の シ ール を 貼 り 、 民 生 委 員 ・ 児 童 委 員 の 周 知 に も 努 め た 。	動 児 童 委 員 制 度 や そ の 活 動 の 理 解 を 促 進 す る た め に		
田布施		○						・町内4つの小学校に新入学されるお子さんに、防犯ブザーを配布した。ブザーを入れた袋には、民生委員・児童委員協議会のシールを貼り、民生委員・児童委員の周知にも努めた。 配布対象者 76名 配布日 田布施西小学校 1月27日 城南小学校 1月28日 東田布施小学校 1月29日 麻郷小学校 1月30日	【成果】 ・若い世代との関わりが希薄化していたため、事業実施により、子育て世代や各小学校との連携が強化された。 【課題】 ・可能であれば直接手渡しができれば更に関係の構築が図れたのではないと思う。